

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600420		
法人名	医療法人社団 延山会		
事業所名	グループホームCoCoすみかわ		
所在地	北海道苫小牧市澄川町7丁目6番15号		
自己評価作成日	平成24年10月10日	評価結果市町村受理日	平成24年12月7日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。
<http://www.katgokouhyou.jp/katgosp/information/public.do?JCB=0173600420&S-CD=320&PCD=01>

基本情報リンク先URL	http://www.katgokouhyou.jp/katgosp/information/public.do?JCB=0173600420&S-CD=320&PCD=01
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護理念にある「その人らしくほのぼのと」をモットーに安心して穏やかな生活を送って頂く事が出来るように、入居者の身体的、精神的状況の変化に合わせた試行錯誤を行いその時々入居者に一番良いと思われる対応を心掛けている。
 医師が施設長で看護師が常勤しており、併設病院との密接な連携により医療健康管理において安心感を持っていただいている。入居者の身体機能の維持等については併設病院理学療法士の、食事の形態や栄養の問題は栄養士のアドバイスも受けることが出来る。また併設の老人保健施設のサークル活動や行事への参加も可能で、入居者の活動に選択の幅がある。また今年度より近くの小学校の特別支援学級の子供との交流も行っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号
訪問調査日	平成24年11月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

苫小牧市で最初に開設したグループホームで、長年培われた多くの実績は随所に活かされており、近隣には同法人の病院・老人保健施設・介護相談センターがあり、四事業所合同での職員研修や災害対策などの協力体制が築かれている。リビングは広く、天井までの吹き抜け構造になっており、天窓からは柔らかな自然光が入り明るく暖かい。各居室には洗面台とクローゼットが備え付けられ、機能的に作られている。2ヶ月に一度、定期的開催する運営推進会議では、行事予定と報告・防災計画・地域との交流・ひやりはっと職員研修・家族の意見要望等、活発な意見交換を行い、ケアの充実と事業所の運営に活かしている。ホーム長及び職員は利用者の生活歴を大切に、単調になりがちな事業所での生活が活性化するように、外出・外食・レクリエーション・行事等の楽しみ事の支援をしている。また、ボランティアや実習生の受け入れも積極的に行っている。質の高いケアの実践と共に、地域密着型として利用者本位を実践している、家庭的で温かな事業所である。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営						
1	1	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>独自の理念を作っている。事務所内に掲示する他、各スタッフが所持し意識して取り組むようにしている。</p>	<p>地域密着型サービスの意義を踏まえた『基本理念・方針』と、全職員で話し合い作成した『介護理念』を、掲示している。</p>		
2	2	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>町内会にも加入し、近くの小学校の学習発表会、特別支援学級の生徒と交流を持っている。散歩に出る事で知り合いと会話したりしている。祭りの時には子ども神輿がホームまで来てくれたり、入居者が出店に出掛け交流している。またボランティアの活動や災害時の協力体制等連携を図っている。</p>	<p>澄川町内会夏祭りの参加・小学校の学習発表会の見学・特別支援学級の児童との交流等の他に、ボランティアや実習生の受け入れも多い。町内の回覧板に『CoCoすみかわ便り』の添付や災害時の連携等、地域と積極的に交流している。</p>		
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>併設施設に学生が実習や総合学習等で入る場合、グループホームを開放し学ぶ機会を提供している。また看護学生やホームヘルパーの実習生の受け入れを行っている。ホームの広報誌に認知症介護ワンポイントアドバイスを載せ町内会に回覧している。</p>			
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議においてホーム活動や利用者の状況評価の結果等も報告し意見を頂いている。また家族会と合同で開催し行事へも参加していただく等入居者と交流の機会を設けている。</p>	<p>運営推進会議にはひやりはつとや事故報告など、積極的に開示され参加者からも前向きな意見が出ている。議事録は整備し運営やケアに反映している。</p>		
5	4	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>必要時に随意連絡を取っている。全ホームが加入している苫小牧・白老のグループホーム連絡会においても毎回例会で市担当者からの指導や意見交換、交流の場が設けられている。運営推進会議には必ず出席していただいている。</p>	<p>日常的に連絡を取り、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。市介護福祉課職員は運営推進会議にも出席し、意見交換を行っている。</p>		
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>併設事業所合同の抑制廃止委員会に入っており、委員会主催だけではなくホーム内でも学習会を行い具体的内容について学びケアに生かしている。出来るだけこまめに見守りを行うことで危険の回避に努めており身体拘束をしているケースはない。</p>	<p>日中玄関は施錠せず、鍵をかけない暮らしを実践している。利用者の外出傾向は抑制せず、心配り・目配りで『見守り支援』に取り組んでいる。身体拘束に関するマニュアルは完備し、拘束のない自由な生活をしている。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人内やホーム内でも研修会を行っている。また実際の現場においても虐待に繋がりがかねない事項に関してはその都度指導している他、カンファレンスにおいても説明し、注意を促している。</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護及び成年後見制度についての研修会を行っている。制度の利用の相談にも対応しているが利用に至った入居者はいない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定する際等には重要事項説明書・契約書を分かりやすく説明し、ご理解したことを確認した後同意のサイン・押印を頂いている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時等において意見・要望を伺う。また、家族様より何々しておきました等といった事も意向と受け止め、利用者別に記入しそれをスタッフが確認することで日常のケアや運営に生かしている。運営推進会議にて第三者委員会の設置について委員の了解を得ているが具体的には進行していない。	家族とのコミュニケーションを大切に、来訪時の会話の中から意見要望を聞き、運営に反映しており、家族会も結成され活発に活動している。公的機関の苦情相談窓口は、重要事項説明書に明記してある。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を毎月第2・第4木曜日の夜に行っている。また代表者が参加する運営会議も月1回行われている。年間活動予定等において職員の意見を出すように努めている他行事等においても内容など出せるようにしている。	職員参加の会議は月2回あり、意見や提案を聞く機会がある。年1度ホーム長との個人面談もあり、職員の意見や提案は、ケアサービスの充実に効果を上げている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や勤務年数による昇給がある。勤務状況等で出された課題を検討し対応している。各スタッフの状況把握と向上心をもてるよう対応するため今年度より人事考課を開始している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に対しては各段階に応じて研修を行っている。また日々業務をするまで勤務時に指導者をプラスする等行っている。また、外部・法人内・ホーム内研修等必要に応じて積極的参加を促している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会がネットワークとなっている。他事業所も集まる研修の機会を利用し勉強すると共に交流を図っている。有志のグループホームが集まって行う勉強会へ参加したりは事業所を見学する等取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談を受けた後に御本人の所を訪問したり、ホーム見学時によくお話を伺う等、機会を生かして対応している。状況によっては入居前にご本人に何度かホームを訪ねてもらい、事前にスタッフとの関係作りをすることもある。			
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時より意識して関係作りを行っている。また入居が決まった段階で家族と面談し家族に要望や意向を確認しどのように取り組んで行きたいかなどを説明する事でより良い関係が出来るように努めている。			
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談は総合的に受け他機関と連携し支援を行っている。			
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で、可能な仕事(掃除や調理)は入居者と協働して行っている。また料理の仕方などで意見を求めたりそれを生かす場作りを心掛けている。可能な限り本人の意見を聴取しケアに生かしている。			
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等においてご本人の状況変化を説明する事で、その日の状況を知っていただき、その上で会話や援助を一緒にしていただけるように働きかけしている。又その日の状況に応じて面会していただく等協力していただいている。スタッフも一緒にお茶を飲んだり会話に入ったりし関係を築くよう努力している。			
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人等の面会も進めているが、誰が来たのか分かる方は少ない。しかし可能な方へは散歩や町内会で行なわれる行事へ参加をする等知人と出会う機会を持てるよう支援している。	歌や音楽などの楽しみの中から回想を促すなど、思い出を大切にしている取り組みを行っている。行事外出や外食も多く、喜びや張りのある生活が送られるよう支援している。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の進行はあるが入居者間で相手を気遣い行動する等自主的な関わりは以前よりも多く見られる。しかし人間関係が上手く行かない時もあり、上手く係わりを持てるよう各個人と職員のコミュニケーションを大切に、職員が利用者同士の関係を取り持てるよう配慮している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も気軽に立ち寄りいただけるよう声掛けを行うと共に話しを伺ったりアドバイスを行う等している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活歴を知る事等で本人本位に援助するように努めている。日常生活場面や趣味、行事等において意向の確認を出来る範囲で行なっている。本人の意向確認の難しい方に関しては家族より話しを伺い本人の思いを推測しケアに生かしている。	センター方式を活用し、家族から得た情報や日頃の行動・表情・過去の生活歴を基に、思いや暮らし方の希望・意向をくみ取り、職員間で情報の共有をしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談時にご家族から聴取するのみではなく、在宅で利用中のサービス事業者や病院等からも情報を収集、把握している。また在宅訪問も行い生活環境の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様々な働きかけをする事で持っている力の把握に努めると共に、一人ひとりのその日の状況変化も把握し、申し送りやカンファレンス等にて情報の共有を図っている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当医その他関係者と共に連携を密に行うと共に、参加できる家族には参加していただき、参加できない場合にも家族の希望を伺いながらケアプランを作成している。毎月のカンファレンス前にシートをスタッフに渡し変化のあった項目に対し記入する事で意見を出し易くすると共にカンファレンスで出た意見等をプランに生かしている。	6ヶ月ごとの定例見直しには家族の意向を踏まえ、新介護計画を作成している。心身の変化時にはその都度、医療機関等との連携の下、個別対応をしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアは基本的にプランに基づき行っているが、その中でも小さな事でも気づきがあった事は日誌に記入し申し送りを行いカンファレンス時に見直す等行っている。また病状面などに関しては申し送りノートに記入し漏れが無いようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や外泊に対する支援、家族等への寝具、食事の提供の他、併設事業所の機能も生かした対応を行っている。また併設している老人保健施設の行事への参加や必要時ハピスタッフの指導等も受けられることが出来る。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日常生活や行事等においてボランティアの方の援助を頂いている。また、災害時や行方不明時等状況に応じて町内会や警察、SOSネットワークと連絡を取る体制となっている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院の外来受診の他定期的な訪問も受けており、医師または看護師と相談したり、指示を仰ぐ等しながら健康管理をおこなっている。希望時や必要時他院を受診し専門医の指導を仰ぐ等行っている。	隣接する同法人内の医師による、訪問診療を受けている。また病状や症状に合った病院を受診でき、常に適切な医療が受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム長は看護師である為、介護職員は日常のケアの中で変化や気づきをホーム長へ報告したり、ホーム長不在時は併設病院の看護師に相談し必要な対応を行っている。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はこまめに面会を行うと共に病棟看護師やソーシャルワーカーと病状等の情報交換を行ない、退院時期を相談したり必要な準備を協働して行っている。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・ご家族の意向を早期に確認し状況に応じて医師、家族、ソーシャルワーカーも入って方針を立てている。	重要事項説明書に、『看取りに関する指針』が明記されており、関係者全員で方針を確認し共有している。変化があった場合には、医師・看護師・ソーシャルワーカー・全職員が一丸となり、支援をしている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム勉強会、併設病院でのAEDや気道の確保、心マッサージの方法の勉強会への参加や急変時の対応等について機会ある毎に説明を行っているが、看護師に頼っている傾向があり、全スタッフに実践力を身につけるような訓練は行っていない。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホームスタッフのみでの研修に加え、今年度は市危機管理室より地震津波など災害時の対応について勉強会を開催、また併設事業所や町内会と合同で火災避難訓練を行う等しているが、地震や津波を想定した訓練は行っていない。	消防署の協力の下、年2回の避難訓練を同法人内の4事業所と町内会合同で実施している。また、運営推進会議では訓練の反省会をし、次回に繋げている。	地震・津波・台風・噴火等、万が一の自然災害にも対応出来るように、火災以外の防災訓練の実施に期待したい。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の生活歴や性格を把握した上で、人格やプライバシーを傷つけないように勉強会や注意をしているが、排泄時に安全確認の為ドアを開けている事があり、確認が優先されないように注意している。	プライバシーをそこねる事がないように、日頃から個人を尊重した言葉がけに配慮している。会議等で職員への意識付けに努めている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物の温かいや冷たい好みや食事の味付け、好きなTV番組等希望を引き出したり、各個人が少しでも選択したり決定できるよう働きかけ、自分らしく生活できるよう支援している。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	認知症の進行に伴い介護が増加し職員のペースで援助しがちな状況ではあるが、少しでも時間を作り散歩に出る等各個人の希望や思いに沿った支援を心掛けている。本人が希望を表現できない方に対してはその人らしさを考え支援している。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時等において自分で選択できる方には好きな衣類を選んでいただいているが、出来ない方に対してもおしゃれを意識して支援している。また行きつけの美容室などにも希望に応じてお連れしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況に応じて調理の下準備、盛り付けや食器洗い等出来る事を行って頂ける様働きかけている。内容に関しては少しでも喜んでいただけるようなメニュー作りや、味付け、盛り付けを行うよう努めている。食べたい物の希望がある時にはそれもメニューに取り入れている。	利用者は配ぜんや食後の片付け等に参加している。職員は食事環境が楽しくなるように同じテーブルに着き、笑顔絶やさずサポートしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニュー作りでは栄養バランスを考え作成している。水分・食事は毎日チェックし少ない方等に対しては捕食や摂取状況によってはエンシュアキッドの処方をお願いしている。その方の嚥下状況により刻みやソフト食等形態も変えている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	法人内や保健所主催の研修会にも参加している。個人の状況に応じて支援する事で残存している歯が少しでも保持できるよう努力している。歯磨き後にうがいできない方に対しては吸飲みの使用など工夫している。必要に応じ併設病院の歯科医の指導を受けている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	重度化によりトイレに行っていたくも難しくなってきたり出来るだけトイレで排泄出来るよう支援している。各個人の排泄パターンを把握し援助している。また日中は布パンツに変更したり、オムツの当て方を工夫し一枚のみにするなど改善している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、周りの人に気づかれない様に、さりげなくトイレ誘導し排泄の自立支援をしている。3ヶ所あるトイレは使いやすく整備され清潔である。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘により様々な症状を引き起こす事がある為、食事内容や朝にヨーグルトを飲んでいただく等工夫している。運動への働きかけは不足している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴に対する希望がある時は意向にあわせて行っているが、殆どの方は希望がなく曜日を決めて入浴している。体調の変化には十分注意し入浴日の変更等も行なっている。また入浴剤の他ラベンダー等を使用し少しでも楽しんでいただける様工夫している。	個々の希望や、生活習慣に応じた支援をしており、入浴剤にも配慮している。身体の状況に合わせ、手浴・足浴や清拭などの支援を行っており、清潔保持に心がけている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の身体状況や入眠状況、希望等を考慮した上で支援している。また入居前の生活状況に合わせて昼寝などもしていただいている。くつろげる環境作りも心掛けている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的や副作用についてはその都度説明している。また毎服薬チェックも行っている。副作用と思われる症状が見られた時には主治医に相談している。薬の管理は出来ないが服薬を自力で出来る方には見守りを行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各個人の好む事等を把握した上で地域の行事へ一緒に参加したり、好みのTVを観たり、歌ったり、手芸をしたり、天候に合わせて散歩したりする事で楽しみを持って頂く。また家事等を得意とする事を行っていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	戸外に出掛ける希望に対しては、天候・気温等を配慮し行っている。散歩等以外本人からの希望や表情を見極めて買い物や外食等出掛ける機会を設けている。	心身の活性化につながるよう、朝の散歩やテラスでの外気浴を取り入れている。花見や見学等の行事外出や買い物・外食も積極的にし、地域での生活が体感できる支援をしている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を必要とする時はその都度家族に持参していただき、本人が使えるよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話やコードレス電話を設けているが電話や手紙をやり取りできるレベルの方はほとんどいない。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダには大きな窓があり畑や庭に咲いた花を見ることが出来るようにしている。また季節に応じてお雛様・こいのぼり、十五夜のお供えを飾る等している。また湿度にも注意し加湿器を使用したりしている。また日差しに対してはテーブルの位置を変えたりカーテンを使用している。	リビングは屋根までの吹き抜け構造で、高所の天窓からはやわらかな自然光が差し込み、広く開放的な共用空間である。利用者の作品や行事写真が飾られ、家庭的な雰囲気となっている。菜園や花壇はベランダの大きな窓から眺めて楽しむ事が出来る。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前や廊下奥にもソファを置いたり、1人掛けの椅子を置いたりしてつづげるようにしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のベット・たんす等家具に関しては出来るだけ本人が使用していたものを持ってきていただいているが家具等家族が選べない時には訪問時にアドバイスも行っている。	居室には洗面台・クローゼットが設置されている。各家庭から馴染みの家具や日用品等を持参し、家族写真や思い出の品が飾られ清掃もいき届き、居心地良く過ごせるよう配慮している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口に名前を付ける、トイレの表示、大きな時計、日めくりカレンダー等により分かりやすくしている。個人の力に合わせて自分のことが出来るよう支援している。		